



税務と経営

編集発行人
税理士

三木 泰

事務所 〒597-0071
貝塚市加神1-11-17
TEL 072(431)1644

8月

(葉月) AUGUST

日	1	15	29
月	2	16	30
火	3	17	31
水	4	18	・
木	5	19	・
金	6	20	・
土	7	21	・
日	8	22	・
月	9	23	・
火	10	24	・
水	11	25	・
木	12	26	・
金	13	27	・
土	14	28	・

8月の税務と労務

- 国 税** / 7月分源泉所得税の納付 8月10日
- 国 税** / 6月決算法人の確定申告 (法人税・消費税等) 8月31日
- 国 税** / 12月決算法人の中間申告 8月31日
- 国 税** / 9月、12月、3月決算法人の消費税等の中間申告 (年3回の場合) 8月31日
- 国 税** / 個人事業者の消費税等の中間申告 8月31日
- 地方税** / 個人事業税第1期分の納付 都道府県の条例で定める日
- 地方税** / 個人住民税第2期分の納付 市町村の条例で定める日

ワンポイント 納税者権利憲章

納税者の税務に関する権利・義務をわかりやすい言葉で説明した公文書。現在、OECD加盟国中、英米仏や韓国など24カ国が制定しており、納税者憲章、納税者権利宣言などの呼び方があります。我が国でも政府税制調査会が平成22年度税制改正で、その制定について1年以内を目途に結論を出すとしています。

論語の世界の リーダーシップ



今から約2500年前の中国に生きた思想家、孔子。その言行録である『論語』は、儒教の教典の一つとしてのみならず、日本においては、政治や経済界のリーダーたちに、行動の指針として読み継がれてきています。

渋沢栄一氏の名著『論語と算盤』の現代語訳本（筑摩書房）が、先ごろ発行されたこともあり、ちょっとした『論語』ブームが、今起きています。“答えのない”現代社会にあって、東洋思想の原点ともいえる『論語』に、多くのビジネスパーソンたちが行動の規範を求めていることは明らかです。

『論語』は、簡潔にして真実を突く言葉だからこそ、現代にも通じる汎用性があるのだと思われます。

今、政治の世界ではリーダーシップが取りざたされていますが、『論語』の世界では、はたしてどうでしょうか？

「修己治人」

『論語』が目指したの

は、一言でいえば、「修己治人」の学でした。修己とは、自分を磨くことであって、特に徳性を高めることが要請されました。

治人とは、政治の場に立って人々を教え導き、社会のために力を尽くすことです。つまり、リーダーとして、世のため、人のために尽くそうとするなら、まず自分を磨けというのが、修己治人の教えにほかなりません。修己の努力を積み重ねていったその先に、目標としてあるのが「君子」です。君子とは、いわば期待される人間像です。

君子は、煎じ詰めると、能力と徳、この二つに絞られていきます。まず能力ですが、社会人として与えられた場で与えられた責任を果たしていくためには、これを磨く必要があります。ただし、能力は、必要条件ではあっても十分条件ではありません。能力と同時に、いやそれ以上に望まれるのが、人格面を陶冶して徳を身につけることです。

能力と徳、この二つを並

べた場合、徳の占める比重が圧倒的に重いものとなります。なぜなら、徳のあるなしが、その人の信頼性に大きく関わってくるからです。徳の中では、「礼」と「義」の二つを紹介しましょう。「礼」とは、社会生活の規範です。「義」とは、人間として当然守らないといけない正しい道を指しています。いわば行動の規範と言ってよいのかもしれませんが。

「利を見ては義を思う」

『論語』では、「義」は「利」と対応して出てくることが多いのですが、孔子の言葉を引くと「利を見ては義を思う」（憲問篇）があります。

利益を追求する時は、常に義、すなわち人としての正しい道を踏み外さないようにしてほしいのだとしています。義を踏み外すようなことをすれば、いっぺんに信用をなくし、何をしても、うまくいくはずはありません。

今、一部に、「これまで日本企業は外需に依存しすぎたために、リーマン・ショックの際にいちばん大打撃を被ることになったのだ」という議論があります。

しかし、日本企業が効率性を追求するあまり、リスクヘッジ(危険の回避)が疎かになっていたとも言えるのではないのでしょうか。

日本はこれまで欧米先進国の中間層および富裕層を対象にした耐久消費財や、それらを現地生産するための機械やシステムといった資本財を中心に輸出してきました。これらのマーケットは、ひとたびリセッション(景気後退)が起きますと、真っ先に買い控えられる分野でもありました。しかも、今回リセッションのダメージがもっとも少なかった新興国への橋頭堡を築くのが、欧米先進国の企業と比べても遅かったのです。

トヨタのリコール問題が世界的に大きく取り上げられたことに象徴されるように、今「日本企業の製品は最高の品質」という誇りが、大きな壁に直面しています。

二律背反を いかに考えていくか

消費地に工場を建て生産を現地化した場合、コスト面でのメリットはあるものの、どうしても品質面でのリスクに直面せざるをえなくなります。日本人が匠の技でこなししてきた部分、たとえば、オペレーションマニュアルに書いていないところまでお互いに目配りす

成功のパラドックス



るなどという細心さを、海外の人間に求めるのは難しいのです。

コストの追求や効率性と、何かあった場合のリスクマネジメントとのトレードオフ(二律背反)をいかに考えていくか、経営者の手腕が問われるところとなっています。

今後、とくに新興国市場に打って出て多様性を確保

していくことを考える場合、現地企業のM&A(合併・買収)は有力な選択肢となります。海外の企業を買収してうまくいっている各社に共通していたのは、いづれも買収先として、自分たちに足りない部分(たとえば製造やマーケット、人材、技術など)を補う企業を選んでいたという点でした。

また、成功している企業は共通して、明確な企業理念をもち、海外展開する際も、それを現地の従業員に浸透させる努力を弛まず行なっています。

マーケットに 聞け

一つ重要なことは、提供する製品は「マーケットに聞け」ということです。ニーズがあるかを調べ、それに合わせたスペック(仕様)の製品をつくることです。技術者の技術革新への想いだけが先走って、消費者が望まないようなレベルの高品質・多機能さを競うようになってしまう危険を冒さないことです。「本当のイノベーション(革新)は新興国から起こる」という視点をもつことです。

また、韓国の総合家電メーカーのサムスン電子のマーケティングにも注目です。日本の研究成果に注目して製品に結びつけようとするのは日本企業より早いと言われています。

成功の背景には、日本の有望な成果や有名な研究者を積極的に取り込む韓国の戦略があります。

コミュニティサイクル

モノを所有するのではなく、必要なモノを必要な時に借りる。所有から使用へ、という昨今の社会のニーズは、限りある資源の無駄遣いを抑える効果もあるようです。クルマから自転車へ！と、CO₂の排出を減らそうという意識の高まりを背景に、「コミュニティサイクル」の動きが各地で活発化しています。パリやバルセロナなど、欧州の約80都市で導入されて既に定着しているシステムで、都心までは鉄道やバスなどの公共交通を使い、街中の移動にはレンタル自転車を利用しようというもの。レンタル自転車の貸し出し拠点（ポート）が街中にいくつも設置されており、返却はどここのポートでもOKという点が、借りた場所に返さなければいけない従来のレンタサイクルと異なるところです。

2009年秋から、日本でも都市部を中心に続々と“実験”が始まっています。まず、

9月に札幌市で12日間の短期実験が行われました。南北約2km、東西約1.5kmの範囲に7カ所のポートが設けられ、50台の“ポロクル”（サッポロ+サイクルの造語）という青い自転車が稼動しました。身分証明書と「おサイフケータイ」機能付携帯電話で30分まで無料、それ以降は有料。

10月には、東京の大手町、丸の内、有楽町地区のオフィス街で2カ月間の実験が実施されました。環境省が大手旅行代理店に運営委託し、南北約1.5km、東西約500mの範囲に5カ所のポート、50台の自転車が配備されました。利用登録料は1,000円で、30分まで無料、10分ごとに100円が課金されます。支払いはクレジットカードで。

名古屋市でも10月に、放置自転車活用型コミュニティサイクル「名（めい）チャリ」が、市と名古屋大学が中心となり約2カ月間にわたって実施されました。また、大阪の彩都では、電動自転車を使ったコミュニティサイクルシステムの実証実験が9月から11月末まで行われました。

道の駅

高速道路のサービスエリアのような役割を果たす憩いの場、それが道の駅です。一般道路にも安心して利用できる施設を、という求めから生まれた道の駅は、現在全国で900ヶ所以上にもなります。駐車スペースやトイレといった休憩施設に加え、その地域の名所や文化、特産物などを活用したさまざまなサービスや情報が提供され、地元とドライバーとのふれあいの場としても活躍中です。

道の駅にはファンも多く、最近は日帰りレジャースポットとして注目されているようです。朝市やガーデニング教室などのイベント開催や、地元の名産品でメニューを企画するなどの取り組みも行っています。生産者と消費者の距離が近いのも産直の市場ならではの魅力。土がついたり形の不ぞろいな野菜や植物を買ったりする様子がテレビや新聞などで取り上げられているのをご覧になった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

歩数計

年齢や体調にかかわらず、手軽にできる健康法といえれば、ウォーキング。誰でもどこでも、時間も場所も選ばず、とりたてて道具も要りません。「わかっているけど、なかなか続かなくて」という人は、お気に入りの「歩数計」をパートナーに選んでみてはいかがでしょうか。最近の歩数計はデザインや機能が優れており、消費カロリー

や脂肪燃焼量が表示されるもの、かばんの中に入れておくだけでカウントしてくれるもの、ゲーム感覚で楽しめるもの、パソコンにデータを取り込めるものなど、実に多種多様。ウォーキングを続けることで、メタボ対策はもちろん、爽快感や体力の向上という効果をもたらします。ご自分のライフスタイルや年齢、好みに合わせて選んだ歩数計とともに頑張ってみませんか？